

横浜専門学校の 思い出

昭和19年 横浜専門学校高商卒業

辰巳 美績

私は、旧制三重県立松阪商業学校を昭和17年に卒業（戦前の中学、工業学校、商業学校は5年制であった）して、横浜専門学校に入りました。

横専に入学したことが契機となって、私はその後繊維業界で生計を立てることとなり、ささやかながらも織布製造会社を経営して、今日に至っております。

人生を振り返ってみれば、悉く「人生はどこでどうなるかわからない。」と感慨深いものがありますが、大切なことは二度決心をして物事を始めたら、最後まで努力する事によって道が開けるものであって、その決心を迷ったり、後悔したら駄目である。」と思われま。

当時（今もそうかもしれませんが）の横専は、全国でも有数の田・山・海の盛んな学校で、毎年英語での弁論大会で優勝しており、学校の英語授業も熱心（ネイティ

ブのアメリカ人教師の存在や陸軍軍人が軍服に軍刀を携えて英語の教育にやっ来て、一言も日本語を話さなかつた）であるだけでなく、1年生に対して2年生の先輩が毎週イングリッシュスピーチを訓練する制度もあって、英語が苦手であつた私は非常に苦痛でしたが、後に貿易会社に勤めて、インド人バイヤーに絹人絹織物を販売する際に多少役立っていたことで恩恵を受けています。

横専3年在学中に、学徒出陣があつて、昭和20年3月の卒業を待つ事なく2年半で繰上げ卒業することとなりました。

「想丘会」と名付けた同窓会は毎年一泊か二泊の小旅行を行つて旧交を温めています。その同級生も殆どの人が亡くなる中「想丘会」は解散し、なお残っている者達で時々会合を持っています。

活動に参加して

昭和46年 法学部卒業

田口 世志男

46年卒業後、48年から大阪に居住し大阪支部からは、毎年ように総会等のご案内頂きながら出欠の返事もせずに、過ごしております。40歳になり、自身の交際範囲が仕事に關係した人たちに限られていくのに気付き、いろいろな方々と年代を超えてお付き合いさせていただきたいと思い、新年会に初めて出席させていただきました。多くに諸先輩等に暖かく迎え頂き、楽しい時間を過ごしました。

当時、事務局を担当されていた、現副会長大石先輩より、お手伝いして頂きとの依頼をうけ、支部活動に参加することになり、現在に至っております。

川口前支部長より依頼され事務局長の大役をお引き受けしました。10数年にわたり多くの方々に協力頂きましたが、会員の皆様には、多々ご迷惑お掛けするばかりでしたが、不十分ながら大役を終えることが出来ました。8年前に神奈川県に単身赴任することになり、事務局長の後任を山根先輩にお引き受け

頂き、現在に至っております。神奈川県での単身生活の後半3年間は、宮陵会本部で仕事する機会を頂き、一般社団法人移行の業務、会報の編集等を行い、会長、副会長、専務理事等の方々には、大変お世話になりました。

特に、本部事務局の三名の方には、感謝の言葉しかありません。また、地方組織の多くの方々とも交流できたこともうれしく思っております。

硬式野球部の神宮大会の準決勝、女子サッカー部の国立競技場の決勝戦、毎年箱根駅伝の応援を現地できたことが感激として残っております。

支部活動の中で特に記憶に残りますのは、海外旅行企画し、台湾台北への旅の記憶です。二泊三日寝食を共にし、楽しい旅行ですることが出来ました。また、当時の川口支部長の尽力で、台湾松下の工場見学することができたことも貴重な体験になりました。

今後も、大阪府宮陵会の活動に参加し、微力ながら、協力させて頂きたいと思っております。